

第1回新富山県教育振興基本計画策定委員会の開催結果について

平成28年6月10日
教育企画課

1 日時：平成28年5月27日（金）10:00～11:30

2 場所：富山県民会館401会議室

3 出席者：委員13名（うち2名代理出席。2名欠席）
専門委員3名（2名欠席） ※委員等名簿は別紙のとおり
教育長、教育・スポーツ政策監、関係室課長 ほか

4 設置目的

教育基本法に基づく教育振興基本計画を新たに策定するにあたり、策定内容に専門的かつ総合的な見地からの意見を反映させるため、新富山県教育振興基本計画策定委員会を設置するもの。

5 委員長の互選及び副委員長の指名

- 神川 康子 富山大学理事・副学長 が委員長に選出された。
- 松本 三千人 富山県立大学理事・副学長 が副委員長に指名された。

6 策定方針等

(1) 作成主体

県及び県教育委員会

(2) 計画の位置付け

教育基本法第17条第2項に規定される地方公共団体の「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」であって、平成28年3月策定の「富山県教育大綱」の下位計画とする。

(3) 策定の枠組み

- ①教育大綱の基本理念、基本方針の踏襲
- ②知事部局と教育委員会が連携して策定
- ③対象期間は5年間(H29～H33)

(4) 計画の内容

富山県における教育分野に関する施策を総合的かつ体系的に構築する中長期的な計画であって、学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習、スポーツだけでなく、新たに教育大綱に盛り込まれた芸術文化や地方創生を含むものとする。

7 委員からの主な意見

- ・小さい時から子どもたちを地域で育てて、地域のことを学んでもらい、そして、大人になっても地域で活動してほしい。

- ・夢や目標を持っている子どもの割合が下がっているようだが、少し気になるデータである。
- ・新しく大綱で追加された文化などを子どもたちにしっかりと伝えることが、道徳心にも心の豊かな成長にもつながる。心が豊かに成長することによって、「夢や希望」につながっていくのではないか。
- ・遊びの中には、学力の3要素がすべて入っており、学力と結びつくような集団遊び、いろんな自然体験、冒険など、そのような中で、もっと大きなスケールで育てていければよいと思う。
- ・子どもの育ちがしっかりと確認できるような形を教員の資質向上と併せて振興基本計画に書きこんでほしい。
- ・家庭の経済状況の厳しさ、また、保護者の養育能力の低下、あるいはさまざまな要因が絡んで、障害がなくても支援が必要だという子どもたちがたくさんいる。
- ・特別支援学校や特別支援学級での指導の充実が非常に重要であるが、経験を重ねた教員の大量退職に対応して、若手をどう育てていくかが課題である。
- ・例えば、私立高校におけるスポーツにおいては、全国一、二を争っている競技もあるなど、富山県の私立学校も頑張っている。振興基本計画の記載においては私立学校の状況も留意いただきたい。
- ・「環境」、「エコ」といった心を小さいうちから育てる、あるいは大人も持つ、ということ振興基本計画に盛り込めないか。
- ・新しい美術館が建つが、文化活動としての場のほかにも、社会教育施設としての担う部分についても期待したい。
- ・富山県で育てた人材は、富山県で活躍してもらうのが一番大切なことではないかと思う。
- ・ICTを教育とか、学生支援にもっと上手に使っていけないか。また、人工知能により、20、30年で人間のやる仕事がなくなっていくという話があるが、例えば、好奇心、挑戦すること、創造性など人間がやらなければいけない部分を見据え、教育していく必要がある。
- ・昔に比べると、高校生の英語はとてもきれいになったが、外国人に県のことを説明できる英語力が大事である。
- ・「教育力の低下」や「教育力の格差」がある中で、子育てに不安を感じている親に対して「親学び」をしていただいているが、非常に重要な役割をはたして行くのではないか。
- ・子どもには、コミュニケーション能力、探究心とかが非常に大事だと肌で感じるが、加えて、例えば友達と何かを成し遂げるなどの「コラボレーション」という感覚が大事ではないかと考えている。
- ・中1ギャップもあるが、高1ギャップもあるのではないか。
- ・「富山県ならでは」、「富山県らしさ」が出ている教育振興基本計画を策定してほしい。